令和７年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立常盤小学校 ）　　学校番号　００２　　【様式】

目指す学校像	心身ともに健康で　思いやりの心をもち　主体的に学ぶ常盤っ子を育成する学校 ～子どもが「思い描く幸せ（Well-being）」の実現をめざす学校～

重点目標	１　児童が学ぶ楽しさを実感し、「本気で学ぶ」授業の創造 ２　たくましい体を育み、健康や安全に気を付けて生活できる教育環境の創出 ３　学校、家庭、地域の連携・協働体制による社会に開かれた教育課程の実現 ４　「学校は安心・安全なところ」のベースとなる学校環境の整備 ５　教職員の職務やキャリア段階に応じた資質能力（指導力）の向上

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和７年２月２５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均と比べ良好な結果である。 ○学習スタイルが児童に浸透してきており、児童の自己肯定感を育てることにつながっている。 （課題） ○授業で学んだことを、生活の中の事象に関連付け、さらなる追究や探究的な学びにつなげていく指導の工夫が必要である。	・「学びを追究する」児童の育成	１　「自分発→みんな経由→自分行き」をベースに、みんなが活躍できる学習活動を通して自分の考えを深めていく授業を展開する。 ２　「見通す→取り組む→振り返る」の授業を実践し、振り返りに小論文（書く活動）を取り入れる。	１　学校評価アンケート「学校は、考える力や表現力を高めるような授業の実施に努めているか」の肯定的な回答　９０％以上 ２　学習の振り返りの記述の中に、自分の成長への気付きや、今後さらに追究したいこと等への記述が増えたか。	１　「学校は、考える力や表現力を高めるような授業の実施に努めているか」の肯定的な回答は９０％であった。 ２　学年や学級の実態、教科の特性によって、取組の差はあるものの、児童の発達段階に応じて、自分の学習を自分の言葉で振り返ることができた。	A	・「基礎基本」の確実な習得をベースに、単元や授業の内容に応じて、子どもたちが自ら考え、取り組み、振り返ることができるような、授業の展開できるよう、引き続き授業改善に取り組んでいきたい。	教職員が熱心に指導に当たっており、子どもたちの学習の様子や、保護者の高評価につながっている。Ａ評価（ほぼ達成）が妥当である。
2	（現状） ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国平均を上回っている。 （課題） ○様々な背景を抱えている児童がいることから、学校、家庭、地域が連携をして、児童をサポートしていく環境づくりに取り組んでいく必要がある。 ○昨今の気象状況、生徒数と校庭の広さの関係等により、学校で子どもがのびのびと体を動かす機会が減少している。	・教育相談、生徒指導等に係る組織的な対応の充実	１　生徒指導、教育相談委員会や情報交換会を定期的に開催し、情報端末を活用して指導の蓄積や分析を行う。 ２　生徒指導等の問題に、迅速、誠実、アフターケアを旨として対応する。教職員研修を実施する。 ３　生徒指導や教育相談に関する教職員研修会を実施する。	１　定期的に校内生徒指導委員会や情報交換会、教育相談日を開催したか。その際、情報端末を活用したか ２　学校評価アンケートにおいて、生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答９０％以上。 ３　講師を招いた生徒指導等に関する校内研修を実施したか。	１　生徒指導、教育相談に係る委員会を月に１回以上開催した。また、情報端末に蓄積したデータを活用した情報交換会を学期に１回開催した。 ２　生徒指導・教育相談等に係る設問で肯定的な回答は９４％であった。 ３　教育委員会から指導者（主席指導主事）を招き、校内研修を実施した。	A	・毎年教職員が入れ替わり若返る中、各種アンケートや、おはようメーターを活用しつつも、普段の児童の様子（態度、表情、言葉…）の変化を察知し、適切な指導や支援につなげられるよう、個々の能力を高めるとともに、組織的な対応を継続していきたい。	登下校の様子をみても、マナーを守り、仲がよい。また、あいさつがしっかりできる子も多く、感心している。 「なわとび」は、小学校に兄姉のいる園児の意欲や技能が高い。学校の取組を園児にも紹介し、意欲を高めていきたい。 アンケートの結果や、取組の状況からＡ評価が妥当である。
		・健康・体力向上の取組の充実	１　「なわ跳び」「ボール操作」「器械運動の感覚作りの運動」等、運動の重点化を図る。 ２　体育・体力向上に関する講話や実技研修、体育に関する授業研究を計画的に実施する。	１　年間を通して重点化した運動種目を実践し、それを基にカリキュラムに位置付けることができたか。 ２　全ての学年で、体育授業の公開及び研究授業を実施し、成果を共有できたか。	１　「ボール運動」と「器械運動」について研究を深め、11 月に研究発表を行った。「なわとび」は、休み時間の自主的な取組が活発になり、充実した取組ができた。 ２　研究発表会を含め、どの学年も体育の授業を公開し、高め合うことができた。	A	・健康な体は、生きる力のベースである。運動や自分の健康について、前向きに考えたり行動したりする子どもがさらに増えるよう、引き続き取組を工夫していく。	
3	（現状） ○常盤中、常盤北小との３校合同の学校運営協議会を開催し、中学校区で目指す子ども像の共有を図り、合同で「コミュニケーション力向上の取組」を実施した。 ○開校９５周年を契機に、地域との連携を一層深め、地域へ出かけての学習や、外部の指導者を招聘しての学習が進んだ。 （課題） ○放課後居場所事業との関係を整理しながら、新しい形の「チャレンジスクール」を構築していく必要がある。 ○教育の質の向上のため、地域や外部の指導者による特別授業等を一層充実させ、カリキュラムに位置付けていく必要がある。	・「常盤エリア」を意識した学校運営協議会の開催	１　３校合同での情報・行動連携のための学校運営協議会を開催し、９年間を見通して熟議を行う。 ２　コミュニティ・スクールはもとより、育成会や自治会、ＰＴＡとの連携を図り、新たなチャレンジスクールの運営の在り方を検討する。	１　３校が連携した学校運営協議会を２回以上開催したか。委員から出た意見を熟議の議題に取り入れたか。 ２　地域の力を活かした持続可能なチャレンジスクールを立ち上げることができたか。	１　３校が連携した学校運営協議会を２回開催し、コミュニケーションに関する内容を熟議の議題に取り入れた。また、学校と地域の良好な関係を築き、学校教育に活かす方策についても協議をすることができた。 ２　11 月に、新たな体制で、チャレンジスクールを立ち上げることができた。	A	・地域のコミュニケーション力を、学校教育に活かせるような取組を具現化し、教育課程に位置付けていきたい。 ・地域の皆様の協力を得ながら、チャレンジスクールの取組の充実を図っていきたい。	新たな形で立ち上げたチャレンジスクールが大変充実している。メニューの中に、地域のスポーツ少年団とのタイアップもあり、地域と共に創るチャレンジスクールの方向性を評価したい。 保護者も多様になっている中、育成会等の行事なども含めて、地域と子どもたちがつながる活動を大切にしたい。 地域の教育力を生かした教育活動は素晴らしく、福祉分野など、さらに充実すべく地域の立場からも提案していきたい。
		・地域と一層連携し、地域の特色を生かした教育活動の実施	１　Ｃ・Ｓを核とし、保護者・地域とともに、児童のコミュニケーション力向上に係る活動を展開する。 ２　専門家やアスリートなどの外部講師を招いた授業を計画し、地域力を活用した魅力ある特別授業やキャリア教育を行う。	１　学校評価アンケートにおいて、コミュニケーションの基本である「あいさつ」に関する設問における肯定的な回答９０％以上。 ２　児童の発達段階や学年に応じた適切な特別授業、キャリア教育を実践し、カリキュラムに反映できたか。	１　「お子様はあいさつをしっかりしていますか」の肯定的な８６％であった。 ２　選挙管理委員会、社会福祉協議会、弁護士、水道局、環境局、美術館、銀行をはじめとする企業の職員など、年間を通して、様々な外部講師による授業をおこなった。	B	・「あいさつ」に関する取組は充実してきている。引き続き、地域や家庭でもあいさつができるよう、学校として呼び掛けていきたい。 ・多様な外部講師による授業と、豊かな教育環境を生かした校外学習は、本校の特色として継続したい。	
4	（現状） ○「黙々清掃」などの日常活動や、地域や保護者と協力した清掃活動等により、本校の環境整備は、外国からの来客等からも評価されている。 （課題） ○施設の老朽化に伴う修繕箇所の増加。樹木の生長により落葉が近隣の迷惑になっている。	・保護者や地域の協力のもと校内整備の一層の充実	１　「黙々清掃」や職員による備品整備、地域と連携した清掃活動を引き続き実施する。 ２　施設の修繕、樹木の剪定等、学校配当予算では対応できないものについては、教育委員会と連携を図っていく。	１　日常の児童の清掃への取り組み状況を把握し、「黙々清掃」を各学期１回以上実施したか。また、年に２回以上地域と連携した環境整備を実施したか。 ２　「学校は、環境を整え、安全であるか」の肯定的な回答９５％以上。	・「黙々清掃」は定着してきた。酷暑のため、夏の校庭整備は中止としたが、本年度新たに、常盤９丁目の有志の皆様と校外の落葉清掃を行った。 ・「学校は、環境を整え、安全であるか」の肯定的な回答は８９％であった。	B	・少年団を中心とした校庭整備や体育館清掃の取組については、特に夏の時期の実施方法について検討していきたい。 ・「環境・安全」については、教育活動の前提として、引き続き意識を高くもって取り組んでいく。	地域には、卒業生として学校と関わりたい人や、関わることができる人がいる。さらなる協力・協働が可能なので、遠慮なく声を掛けてもらいたい。
5	（現状） ○「コミュニケーション能力」や「自己肯定感」など、子どもに身に付けさせたい力を明確にし、「本気の学び」に向かう児童の育成に向けた授業実践に取り組むことができた。 ○ICT ツールの活用により、日頃から、よい授業の方法や授業の資料などの情報を共有することができた。 （課題） ○日々の授業の中で、どの教員も、どの教科等でも研修の成果を生かした授業展開（本気の学び）ができるようにしていく必要がある。 ○忙しい日々の中ではあるが、特に、経験の浅い教員の研修の機会と場を充実させていく必要がある。	・教職員のボトムアップによる学校課題研究・校内研修の充実	１　研究主任を核とし、教職員のボトムアップによる研究を推進する。指導者として大学教授等の学識経験者を招く。 ２　一人１研究、一人１回研究授業・公開授業を実施する。 ３　校務用の端末等の活用により、ＩＣＴツールの活用についての日常的な情報交換を行う。 ４　教職員の得意な分野の業務内容や、指導方法等について学び合う「校内パワーアップ講座」など、教職員による自主的な研修会を行う。	１　指導者を招いての研究授業や講話等の学校研究を６回以上（学期に２回程度）実施できたか。 ２　教職員の主体的な研究として、一人１研究に取り組んだか。 ３　教育委員会が提供する「学びの指標」授業アンケートの「ＩＣＴ活用」の項目の数値が市平均を上回ったか。 ４　方策１～４の結果として、学校アンケートにおいて、学校への満足度に係る設問での肯定的な回答９０％以上	１　大学教授や市内の校長・教頭等を、述べ１２名招聘したほか、勤務時間内の研修はもとより、時間外にも有志による研修会を行った。 ２　研究の成果発表として、一人１回の公開授業を行い、授業後には、小グループによる研究協議会を実施した。 ３　「学びの指標」授業アンケートの「ＩＣＴ活用」の項目の数値は市平均と同等であった。 ４　学校への満足度に係る設問での肯定的な回答は９２％であった。	B	・充実した校内研修ができているものの、日頃の授業実践については、教職員の経験等により差がみられる。 校内研修については、一層の充実を図るとともに、一人１回の公開授業により、その成果を問う取組は引き続き継続していく。 ・一方で、教員の働き方の改善に向けた負担軽減策や業務の効率化については、引き続きの課題としたい。	教職員の熱心で献身的な働きによって子どもたちはよく育っている。教員の成長と指導力、そして、教員が明るくポジティブでいることが、子どもたちの活力につながる。 健康に留意して、引き続き子どもへの教育をよろしくお願いしたい。